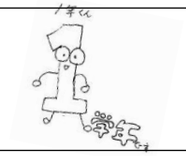
ケヤキと友に



江戸川区立清新第二中学校
第１学年通信　　No.１１
2024 年５月３１日 発行

運動会の感動をもう一度 part1

『一連托生』　　**B 組**

「一連托生」この言葉は、善いことや悪いことを仲間と共に乗り越え、絆を大切にするという意味があり、今年の運動会のスローガンでもある。このスローガンのように、クラスの仲間で心を一つにして、中学校生活最初の運動会を、一生懸命に頑張ろうと思った。

私は、今年の運動会、絶対に優勝したいと思っていたので、運動会実行委員に立候補した。しかし、練習計画やリレーの走順などを考え、いざ練習を行ってみると、大縄は全く跳べず、リレーもバトンパスがうまくいかず、台風の目もずっと三位。このままでは、絶対に勝てない。そう思った私は、クラスの何人かの人と走順やチームのメンバーを変えたりと、試行錯誤した。そのおかげでB組の団結力が増していき、大縄も四十回越えが出るようになった。それぞれの大縄のチームで声をかけ合って、「もっと声だそう。」「もっと高く跳ぼう。」などの意見を出していくようになった。実行委員としていつも声かけをしていたが、自主的に行動してくれる人がどんどん増え、うれしかった。

そして本番。たくさんの保護者や先生方が見ている中で、B組は練習の成果を発揮できた。どの競技も上位で、全員リレーではバトンパスの練習のおかげで一位になることができた。このリレーの得点が勝利点となり、B組は優勝することができた。

私は改めて、努力し協力し合うことは大切なことだと思った。ときには、練習内容で揉めることもあったが、一人ひとりが、あきらめずに最後まで努力し続けたことで優勝することができた。優勝した時は、本当にうれしかった。私は、このうれしさも努力し、協力しあって頑張ってきたからこそだと思う。

このうれしさを胸に、次の学校行事も全力で頑張りたいと思う。

『全力で』　　**C 組**

直射日光が肌を熱くし、体温を上げていく。足の裏が砂で痛い。体操着も汚れる。それでも踊った。最後まで。

今年は少し早めの運動会、準備も練習も忙しかった中、一番鮮明に覚えているのは全校生徒約二百人の息をピタリと合わせるソーラン節。振りは覚えていたが、全体の移動や、ズレなどたびたび忘れることもあった。だが、清新第二中学校の伝統を受けつぎ、完璧に踊りたかったので、少ない練習時間でもやれることはやったはずだ。それでも難しいところはやはり難しくて、クラスのポーズへの移動の距離が長く間に合わなかったり、クラスポーズをどう演技するかなど、悩むことはあった。本番直前でも、止める場所や移動するところと、いろいろ考えることが多かった。緊張はなかった。ただ、今までの頑張りをぶつけたい。早く踊りたい。そう思っていた。三年生から聞こえる筋の通った一言で、みんな一斉にかまえた。曲が流れた。踊った。とにかく踊った。踊り切りたかった。それでいて、失敗はしたくなく、細かいところ、手先まで意識して踊った。踊り切ってから気づいた。私は、自然と笑顔をこぼしながら踊っていた。みんなと息を合わせて踊るのは、楽しかったのだと思った。

一年生らしく、全力で踊り切ったと思う。三年生にとって最後のソーラン節を盛り上げられたと思う。来年は二年生になる。一年生よりもかっこよく、三年生に負けず劣らない踊りをみんなのスマホやカメラに残していきたい。

『運動会』　　**A 組**

僕は初めての運動会でとても緊張したけれど、最後まで全力で動けてうれしかった。1 年 A 組は結果的には負けてしまったけれど、皆で力を合わせて練習した A 組が一番声が出ていて気持ちでは勝っていたと思う。

2，3年生のソーラン節を見て、先輩たちのすごさを改めて実感でき、来年には自分もこんなかっこいい先輩になりたいと思った。ソーラン節以外にも、三年生の学年種目の「大ムカデ」で相手がすでにゴールしていて負けているとわかっているのに、あきらめずに最後まで動きを合わせて進んでいる姿が本当にかっこよかった。

僕はこの運動会を通して、皆で心を合わせることの大切さを知った。結果がどうであろうと、みんなで楽しく声を出して、盛り上げることができたから今日の運動会大成功だと思う。でも、悔しくて泣くほど気持ちを込めていた3年生にはまだ勝てない。

次の運動会では、気持ちの面だけではなく、個人種目などの技術面も磨きたい。そして、積極的に係にも参加したい。